



豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Summer 2024

Vol. 63

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN×FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM

トピックス

T O P I C S



門司みなと祭りに参加しました！

5月26日 門司みなと祭り祝賀パレードに参加しました。当日は豊寿園の職員が門司区赤十字奉仕団の皆さんと、けんけつちゃん、はーとらちゃんと一緒にパレードし沿道からたくさんの方の声をいただきました。



ボランティア清掃を行いました！

5月8日 豊寿園の職員とその家族とで、観光スポットである門司港レトロ地区のボランティア清掃を行いました。当日、赤十字のボランティア団体である北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会の皆さんも一緒に活動しました。1時間程度の活動で数袋のごみが集まりました。



利用者様の歯科検診を行いました！

6月8日 門司区歯科医師会の先生方による特養利用者様の歯科検診が行われました。豊寿園の開設以来、続けていただいている大切な行事です。利用者様一人ずつ、丁寧に診察していただきました。治療が必要な方につきましては、順次、往診にて治療していただきます。

地域ぶらり情報



アメリカ南部のようなレストラン

門司駅より淡島神社方面に向かい、車で10分の所に『ハンバーグSUN』があります。2020年11月にオープンした、和牛×国産豚にこだわったハンバーグ専門店です。店内はアメリカ南部の香りのする、まるで劇場のような広々としたホールに全長12mに及ぶ巨大オープンキッチンと6人が座れるテーブルが6台あり、テーブルが広くゆっくりくつろげます。メニューは豊富にあり、ソースもこだわりのデミグラスソースの他におろしソースなどあり、鬼おろし器で作った荒めの大根おろしに、すだちやわさび、ヤマニ醤油をかけて食べるととても美味しいそうです。今回は、人気No.1のフレッシュケイジャンハンバーグに、ガンボスープを注文しました。テーブルに届いてからアツアツの鉄板にソースをかけるので、ソースの香りが食欲をそそります。ふっくらでジューシーなハンバーグは食べ応えがあります。ガンボスープはトマトベースでスパイスが効いていますが、オクラのトロミもありとても口当たりはまるやかでした。古き良きアメリカの音楽を聴きながら食べるワイルドなハンバーグ。ぜひ一度、食べに行かれてみてはいかがでしょうか？

『ハンバーグ SUN』

北九州市門司区奥田1丁目10-7
OPEN 11:00 ~ 15:15
17:30 ~ 21:15(土・日)
店休日 月・火曜日
TEL 093-555-2929



あしがき

高校生になった長女のため、(ほぼ)毎朝、弁当を作ることが日課になりました。自分自身は母親の手作り弁当が学生の頃から苦手でしたが、思春期の娘のご機嫌をとるべく頑張っています。とはいえ、冷凍食品のおいしさは感動的ですし、傷まないように加工されたバラやカップなど、私が学生の頃には無かったような便利グッズがたくさんあり、時代は進んでいることを毎朝、感じさせてくれます。私たち介護業界にもAIの活用や電子化することによって作業効率を高め、人出不足を解消しつつ、サービスの質を高めよう、ということが叫ばれています。私たち豊寿園でも、様々な工夫や機器を活用することで、時間を生み出し、利用者様に還元できるような対応していきたいと思えます。そういった新しいことへの取り組みなどについても、この「豊かな樹」でご紹介していきます。今後も、豊寿園に是非、ご期待ください。

広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、今年4月に日赤太寿園から事務課経理係へ異動してこられた渡邊雄樹(わたなべゆうき)さんです。プライベートでは家庭を大事にする良きパパです。忙しい仕事を終えてから、メンズ雑誌をイメージした園内での撮影に協力してくれました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、令和5年11月に豊寿園でお看取りさせていただきました坂田小夜子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族の了解のもと、園内の記録からご紹介します。



今回ご紹介する坂田小夜子様。

— 認知症状は徐々に進行していき、数年後には娘さんの顔も認識できないことも出てきました。 —

坂田様は門司区でお生まれになりました。幼い時に家庭の事情で博多に移られ、成人後に再び、生まれた門司に戻つてられました。お見合い結婚をされ、専業主婦として子供さんを育てられました。平成22年にご主人が先立たれた後から物忘れが出現したそうです。同じことを何度も話されたり、鍋を焦がすことや、部屋の中に女の子がいる、などの幻視が見られるようになったため、専門医を受診されアルツハイマー型認知症と診断を受けました。

認知症状は徐々に進行していき、数年後には娘さんの顔も認識できないことも出てきました。平成29年に豊寿園のショートステイを利用開始され、月に1,2回の利用を重ねていましたが、夜眠れないなど馴染むことができなかったため利用を中断され、他施設ショートステイを利用されていきました。平成30年に他施設ショートステイ利用中に転倒され、右大腿骨頸部を骨折。手術を受けるため医療機関に入院され、歩行は可能なまでに回復されましたが、認知症が増悪しリハビリ継続が困難となつたため、精神科医療機関へ転院されました。内服調整などを受けられ、落ち着きを取り戻しましたが、歩行が困難となったことから在宅生活へ復帰出来なくなり、退院と同時に豊寿園ショートステイの長期連続利用を開始し、その後、特養へ入所となりました。

— 明確な発語はほとんどなく「あー」などの声で感情表現をされている状況でした。 —

入所時には、食事は何とかご自分で摂取されていましたが、明確な発語はほとんどなく「あー」などの声で感情表現をされている状況でした。それでも

ご家族が愛犬の話がされると、「クロちゃん」と発語されたり、笑顔も見られていました。入所当時より両ひざの拘縮が見られており、身体機能の低下とともにほとんど伸ばすことができない状態になっていきました。また、「あー」という声が昼夜見られるようになり、何かしらの意向を表現されている様子はあるものの、それがわからない、というもどかしい状況が続きました。入所から2年が経過したころには、日常生活全般に介助を必要とするようになりましたが、「あー」という声は継続していました。また、この頃から婦人病や尿路感染症を起こしやすくなり、発熱することも増えていきました。入所から3年が経つころには、食事を食べると咽こむことが増えていき、栄養補助食品を中心に全介助で摂取していただくようになりました。栄養補助食品は安定的に摂取することはできていましたが、介助中にも「あー」という声が出してしまうため誤嚥が心配な状況が続き、食後に痰が絡み、吸引が必要になることが出ていきました。

— 令和5年になると「あー」という声はほとんど聞かれなくなっていました。 —

HOUJYUEN × Family

令和5年になると「あー」という声はほとんど聞かれなくなっていきました。が、体重の低下が進み、熱発されることも増え、全身状態の低下が見られるようになりました。契約者である長女様と将来的に経口摂取が出来なくなつた際の意向についてお聞きしており、延命治療等は希望していません、と確認はしていましたが、7月頃から痰がらみが頻回に見られるようになり水分摂取にも支障が生じてきたことから、長女様と面談を行うことを計画しました。けれども、当時、長女様の体調が悪かったことから面談を行うことができなかったため、長女様の体調が戻るまでの間、1週間だけ医療機関に入院していただき、点滴による輸液を受けていただきました。1週間後、退院にあわせて長女様にも来園いただき、今後の方針を話し合いました。入院中の担当医からは認知症による老衰の状況であり、経口摂取は困難との診断でした。長女様は点滴などの医療行為はせず、豊寿園で今までと同じように過ごしてもらいたい、と希望されたため同日から看取り対応を開始することになりました。

出来てしまつていたため、その処置をしながらではありましたが大きな変化はなく、これまでと同じような生活の中で、ご本人がお好きだったコーヒーにトロミをつけて飲んでいただく日々を3ヶ月過ごされました。

―発熱が毎日のように続き、ご本人が徐々に衰弱していくのが見てとれました。―

仙骨の褥瘡も完治した11月初め、突然、臭いの強い血液の混じつた水様便が見られました。ご家族も受診を希望されたことから医療機関を受診し、検査した結果、婦人科系のがんの疑いと診断され、膣から大腸へ穴が開いていることもわかりました。担当医からは炎症による発熱や下血が起きる可能性が高い、と説明を受けました。その予想のとおり、同日から37度台の発熱が毎日のように続き、ご本人が徐々に衰弱していくのが見てとれました。受診の翌日からは食事、水分の摂取が進まなくなり、二日後には1食程度しか摂取することが出来なくなりました。長女様は受診後から毎日のようにお仕事の合間を縫って面会に来られ、傍に付き添われていました。最初は何をしてあげれば良いかわからない様子で



園内行事に長女様と参加された際のお写真。照れたような笑顔が素敵な方でした。

したが、徐々に落ち着かれて、スポンジに水分などを含ませて介助するなどしてご本人との時間を過ごされていきました。受診から1週間たつたころには水分を含む程度しか口にできなくなり、その後飲み込むことが出来なくなつた為、ご家族とも相談し、口からの摂取を止めることにしました。11月16日昨夜から呼吸状態は変わらず、常に口を開けられているため、朝、コーヒーをスポンジに含ませて口の中を湿らせる。午後から入浴していただく「あー」という声を出される。夕方から呼吸が浅く、多くなってくる。21時に帰宅されていた長女様へ電話連絡し、すぐにご家族で来園され、居室内で傍に付き添われる。

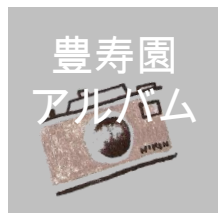
それから4時間後、坂田様はご家族が見守る中、息を引き取られました。在宅時代から6年弱のお付き合いです。ご家族とお話している時や、愛犬の話をした時の照れたような笑顔の坂田様を私たちは忘れなれないと思います。

おでかけ



5月 利用者様のゆかりの場所へお出かけ。門司港育ちの99歳と101歳のお二人。二人で200歳の楽しいお出かけになりました。

お買い物



6月 豊寿園にケーキ屋さんが開店。好きなケーキを小銭でお買い物していただき、おいしく、楽しい時間を過ごしていただきました。

ドライブ



6月 関門海峡を渡って下関市までドライブ。晴天にも恵まれ、車内ではおしゃべりに花が咲きました。

たなばた



7月 七夕に短冊に願い事を書いて、冷たくて美味しいメロンソーダを楽しみました。

デ イ サ ー ビ ス

花見



4月 桜のトンネルを楽しまれました。

おやつ作り



4月 苺のおやつ作りしました！

ドライブ



5月 青空に泳ぐ鯉のぼりを楽しまれました。

けんけつちゃん



5月 けんけつちゃんがあそびにきました！

運動会



6月 色々な競技を頑張りました。

園芸



6月 今年も野菜の苗を植え付けました。

Summer2024

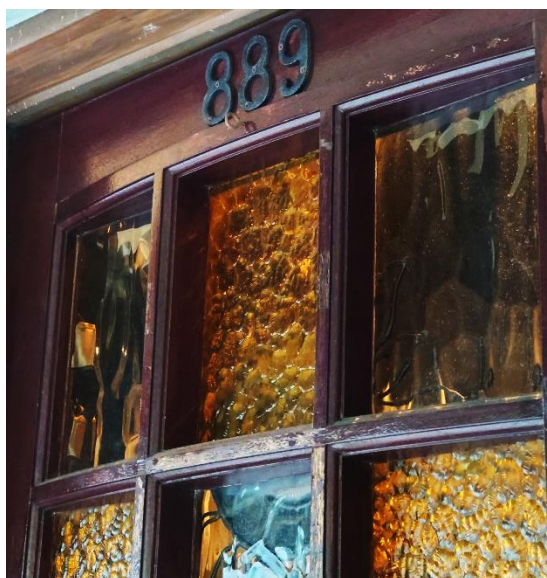
Vol . 63

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN*FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJYUEN